

媚^{Be}・妹^m・Baby

フルカラーコミック
Full Color Comic

SSC
亜美2

adult only

くわいむれもん



媚・妹・Baby 亜美2

原案 くりいむレモン

媚・妹・Baby

TEXT ローライ

CG かも兄





エピソード3 妹の性教育AGAIN

ヒロシは荒い息をついていた。愛しい妹、亜美と肉の交わりを果たしてしまっただけだ。近親相姦の背徳感に背筋がゾクゾクするが、それ以上に妹の無垢の膣に思い切り射精したその快感のほうが何倍も大きかった。

眼下では茫然自失の態で全裸の亜美がベッドに伏臥している。その股間からは先ほどの絶頂の余韻としてドロドロの白濁液が幾筋も滴り落ちていた。

——亜美の中にボクの精液が注ぎ込まれて、それが溢れ出ている。

息も絶え絶えのようすで小刻みに慄える亜美の肢体がたまらなく色っぽかった。だから、思春期のヒロシの肉棒は驚異的な速さで回復した。先ほどの射精が嘘であるかのごとく、それは勃起して雄々しいほどの角度でそそり立った。

——一回くらいじゃとても満足できない。もっともっと亜美の中に出したい。

○学生の性欲に限りはなかった。

「亜美、次は上に乗ってごらん」

さも当然のごとく、ヒロシはそう妹に促した。

一方、亜美は全身を襲った快感に未だ我を忘れていた。そもそも性行為がどのようなものかさえはつきりとは理解していなかったのだ。それどころか、キスさえまだ誰ともしたことがなかった。その状態でいきなりディープリキス、愛撫、フェラチオ、口内射精、生セックス、中出しなのだから、戸惑うのも無理からぬことであった。

ただ、大好きな兄と相思相愛の関係になれたことがたまらなく嬉しかった。うわべだけの空虚なやり取りではなく、お互いの肉体を交わらせて最後は一つになる、それこそが二人の絆であると固く信じた。だから、兄の「次は上に乗ってごらん」という言葉にも素直に応じることができた。

亜美は倒れ伏していた躰をゆっくりと起こした。全身が汗だくで、精液、愛液、唾液に染まってグチャグチャになっている自覚があったが、なにも恥ずかしいと感じなかった。振り向くと、ヒロシが垂直に屹立した怒張をつかみ、仰向けに寝そべって亜美と再び交わる瞬間を今かと待ちかねている。

亀頭の先端からは半透明な樹液がダラダラと滴り落ちて、ヒロシの指を濡らしていた。

——お兄ちゃん……

亜美の性感も次第に回復し始めていた。

亜美は遠慮がちにヒロシの股間を跨ぎ、それから意を決して腰を沈めた。

ヒロシは妹の艶やかな動きを特等席より眺めていたが、やがて観客から主演男優に早変わりした。

亜美の柳腰をつかみ、幼い割れ目を干切れそうなほどに勃起した肉棒へと誘導する役目を担ったのだ。

最初に亀頭が媚肉に触れた。肉と肉が触れ合う痺れるような快感に二人は同時に躰を仰け反らせた。経験の浅い二人にとっては性交の一つ一つが官能を呼び覚ます因子となった。

「あつ、あううっ……さ、裂けちゃう……」
最初に亜美があえぎ声を上げた。

「ウツ、うああああ……」

肉茎が徐々に膣に埋没していく堪えられない快感にヒロシも言葉にならない呻きを漏らした。

「……す、す……ごい……いっ……ぱい——」

亜美は無意識のうちに肉棒に挿し貫かれた絶頂感を言い表していた。

「おお……亜美も自分で動いてごらん」

激しく腰を動かしながら、ヒロシは騎乗位で女の悦びに耽る妹を巧みに導いた。

「すごく……イイツ！」

亜美は押し寄せるエクスタシーの波動に圧倒されて涎を垂らしつつ、渾身の力で上下動を繰り返した。一突きごとに亀頭が子宮入り口に達して、亜美の性感をいやがうえにも加速させた。

「ああああ……お兄ちゃん……亜美もうダメツ、トンでっちゃうううう——」

妹の躰が紅潮して、それと同時に媚肉の締め付けもきつくなっていくさまをヒロシは愉悦の意識の中で感じ取った。股間の一点だけでつながっているというのに、その刹那二人は全身が一体となる高揚感を覚えた。

快感をさらに高めようと、ヒロシは亜美の尻たぶを両手でつかみ、指が食い込むほどにグニョツと押し拡げて、よりいっそう猛り狂った怒張を肉孔の奥底にまで叩き込んだ。そのたびに結合部はグチュグチュと卑猥な音を立てて、体液を周囲に迸らせた。

「んああ……亜美、おかしくなっちゃううう……」

亜美はすでに何度もイッてしまったようだった。



ここでヒロシはちよつとした悪戯を思いついた。亜美の尻を割り裂いている両手を近づけて、人差し指と中指計四本で亜美のアヌスを刺激し始めたのだ。

「いやあ、お、お兄ちゃん・・・やめて、そんなこと——」
全身を覆う陶醉感はそのままだに、新たな性感を加えられて、亜美は没我の淵へと追い込まれた。膣には灼熱の肉棒が、そして菊門は四本の指で弄ばれているのだ。





言葉にならない悲鳴を上げながら、亜美はよがり狂い、絶頂を味わい、しまいにはなにもわからなくなってそのまま兄の熱い射精を受け容れた。

○学生の亜美にとって、それは目もくらむような体験であった。だが、その衝撃はヒロシにとっても同じ。妹との近親相姦がこれほどまでに蕩けるような蜜の味だとは知る由もなかった。



エピソード4 体育倉庫にて

今日は亜美の〇学校の運動会。ヒロシは父兄の当然の権利としてこれを観戦、躍動する幼い妹の肢体に言い知れぬ興奮を覚えた。

そして運動会終了後の夕刻、ひそかに体育倉庫に亜美を呼び出した。

裸電球一つの倉庫内は薄暗く独特の雰囲気があったよう。そこへ汗だくの体操着姿で亜美がやってきた。

「運動会で活躍する亜美、かわいかったよ。もうガマンできないんだ。ここで愛し合おう」

「で、でもお兄ちゃん……亜美、汗かいてるし、こんなところで人に見られたら——」

「だいじょうぶ、もう運動会の後片付けも終わってみんな帰ったし、こんな時間じゃだれも来ないよ。

それに、運動した後の亜美の体の匂いを直に味わいたいんだ」

兄ヒロシの切なる願いに亜美は抗えなかった。

体育マットを敷いた上で、二人は禁断の交わりに入った。

ヒロシは慈しむようにゆっくり妹のパンツとブルマをいっしょに下ろした。
「あああ・・・亜美キレイだ。キレイだよ」
香気立ち昇る花びらと菊門を同時に目の当たりにして、ヒロシは没我の境地に達した。思わず顔を近づけて胸いっぱいその香りを吸い込んだ。

もう辛抱できなかつた。
ヒロシは甘酸っぱい匂いを放つ媚肉にむしゃぶりついた。

ああー
なんか
酸っぱい...

ニオイ
臭いじゃ
ダメーッ

コラあ
ハ





「いやあ、お、お兄ちゃん...今日の亜美、汗臭いからそんなとこ舐めちゃダメだよ」
亜美は本気で嫌がったが、ヒロシにやめるそぶりはなかった。

ありえないシチュエーションが影響したのだろうか。
亜美は最初の絶頂へと導かれてしまった。

ぐんぐん

うあぁ!!
あ

びん



おっ
お兄ちゃん

学校で...
イツちやった

これ以上は

お家で...
しよう?

ああ、

亜美...

キミの靴は



いいものが
あったよ





いなり

良し！

いなり

いなり

いなり

亜美

ああ…

縛られてる
キミも…

可愛い

カワイイ

ミと…

あ…

「す、すごい締めりだ。亜美の膣、
熱くてきつくてサイコーだよ！」

「お、お兄ちゃん・・・亜美、ヘンなの。
痛いのに、だんだん気持ちよくなってきて」





あ、亜美
亜美……
いつもより
沢山、出……

ぽん
ぽん

ぽんぽん……っ
……だッ

おっ
おん
おん

お兄イ……
ちゃんっ

ぽんぽん

ぽんぽん

亜美のっ
おナカあ

熱あつ
ー
ー
ー
ッ
♡
♡
♡

お
お
お
お

ん
ん
ん
ん
ん



あはれ

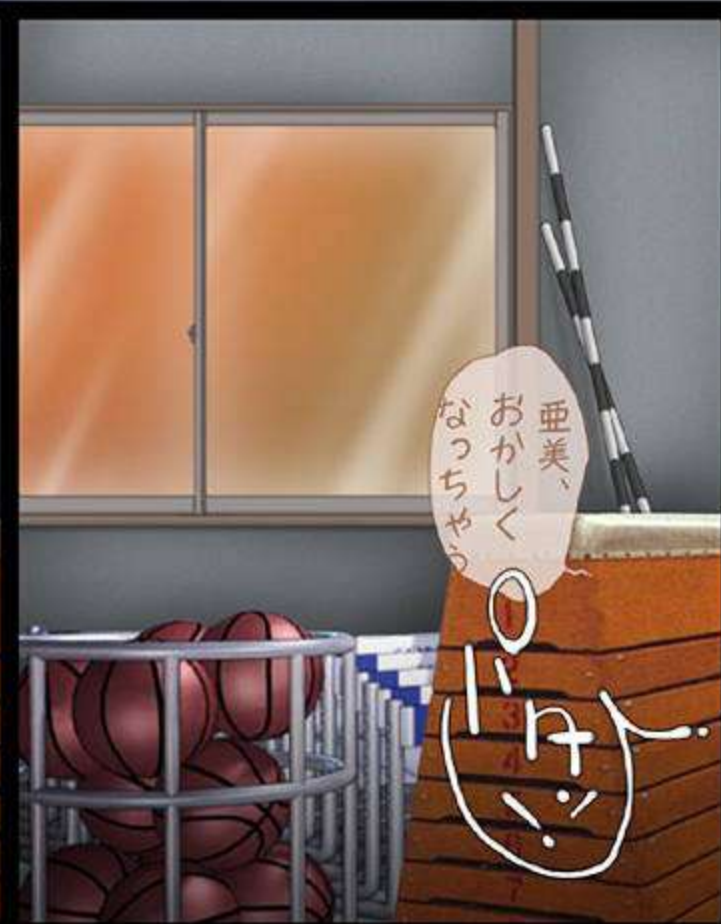
あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ



エピソード5 続・体育倉庫にて

兄妹の逢瀬を体育倉庫窓の隙間から覗き見していた男がいた。亜美の担任教師、早川拓朗だった。ひそかに亜美に邪な想いを抱いていた拓朗は大きなシヨックを受けたが、逆にこの状況を利用してやろうと良からぬ考えを思い巡らせた。

ある日の放課後、亜美の机の中にメモ書きが入っていた。そこには「今日の午後6時、体育倉庫で待つ。H」と書かれていた。当然、亜美は兄ヒロシからの誘いと受け止めたが、そのメモを書いたのは早川拓朗であった。拓朗は独りほくそ笑んだ。「ボクはウソをついてないよ。Hからの誘いだからね♪」



亜美は放課後、体育倉庫へ向かった。そこではすでに全裸となった拓朗が待ち構えていた。だが、裸電球一つの倉庫内は暗く、さらには陽が落ちたせいで、後方の窓からも光は入ってこない。拓朗は巧みにシルエットが分からない光源の死角を狙って立っていた。しかも無芸大食の拓朗に唯一備わった才能として、他人の声色を真似ることだけは抜群にうまいという特技がここでは効果を発揮した。

拓朗は巧みにヒロシの声色を真似た。
「亜美のことを待ちくたびれて、もう服を脱いじやったよ。さあ、これを舐めてごらん」
亜美は恥ずかしげな表情を見せつつも、拓朗の怒張に奉仕を始めた。






まもなく亜美は肉棒のサイズが兄のヒロシよりも数段大きいことに疑問を呈した。

「それはね、亜美のことを想うと
どんどん大きくなってしまっただよ
いい加減な説明だが、○学生の亜美
にはそれでも通じてしまった。

——亜美さんの初めては全部ボクが
もらうよ。お兄ちゃんとの過ちは兄妹
だからノーカンだよ。ね。
いよいよ絶頂に達して、拓朗はヒロシ
の数倍のザーメンを亜美の体にぶちま
けた。





エクスタシー状態の亜美をマットに寝かせて、その太腿をつかみ、拓朗はまんぐり返し気味での挿入を試みた。ついに拓朗の亀頭が亜美の膣に埋没したそのとき、扉の隙間に懐中電灯の光と「だれかいるのか」という警備員の声。「まずい！（大汗）」

拓朗は数秒で衣服を着用、倉庫後方の窓から脱出。光よりも速いその姿を目撃した者はだれもいなかった。一方、警備員は「こんな時間にだれもいるはずないか」と独り言をつぶやいて去っていった。

あとがき

当初の予定通り、「媚・妹・Baby A2」をリリースすることができました。まずはほっと一息ついていきます。「媚・妹・Baby A1」はくりいむレモン第一作「媚・妹・Baby」の同人版リメイク作品ですが、「媚・妹・Baby A2」はくりいむレモン第五作「亜美 Again」のリメイクではありません。なぜなら「亜美 Again」の世界観を取り入れると、必然的に“破壊者”河野が登場し、物語が急展開せざるをえなくなるからです。

亜美は「媚・妹・Baby」における兄想いの従順な妹という設定が個人的にベストだと考えており、そこに現実的な“非情の世界”を描く必要はないとさえ思っているほどです。ゆえに、兄妹のラブラブな箱庭的世界は永遠に続きます。二人を離別させる要素は存在しないのです。

というわけで(?), 「媚・妹・Baby AO」シリーズはいったん休止して、次回作は予告のとおり「黒猫館」です。あやが登場するのは5年ぶりでしょうか。この数年の間にいろいろと温めてきた構想がついに形となって現れるときが来ました。テーマは「黒猫館の精髓を極める」これに尽きます。アニメ「黒猫館」を観て、同人誌「表面張力」を読んで、感動したひとはどこに魅力を感じたのでしょうか。本サークルはそこを徹底的に追究します。

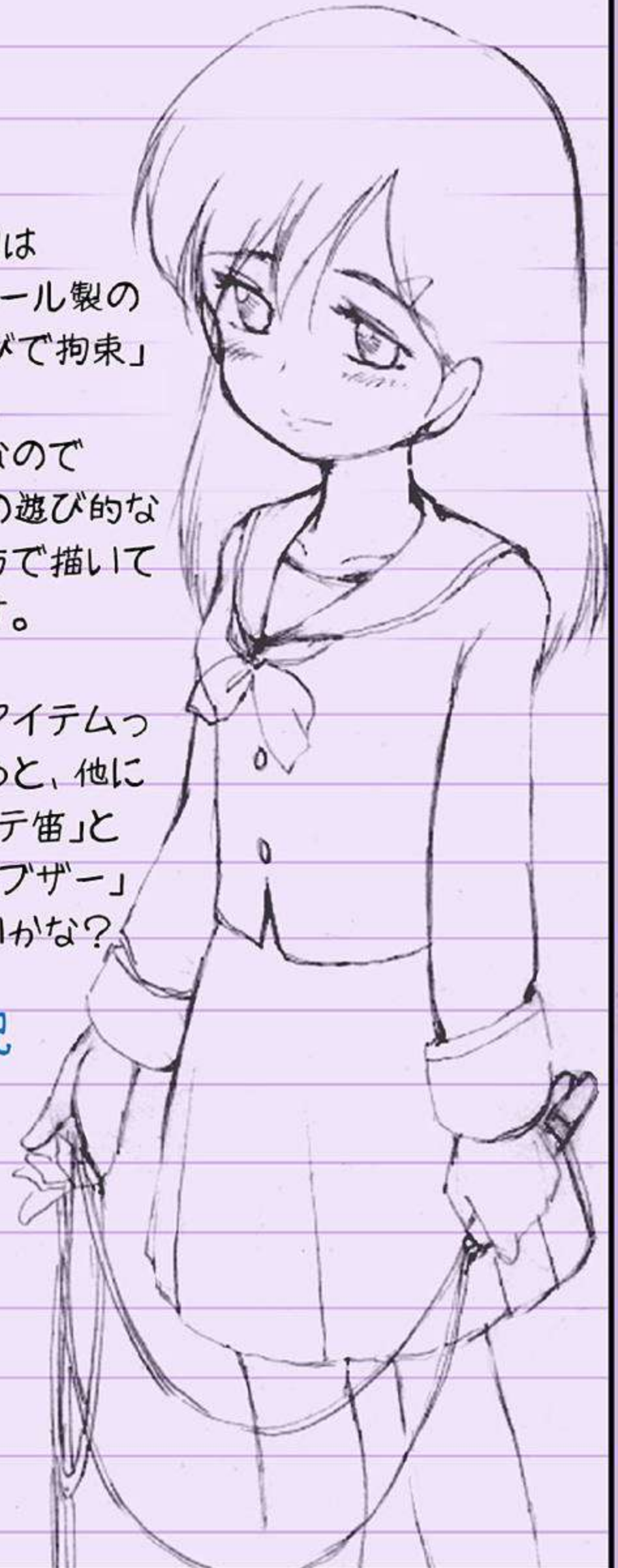
乞う、ご期待！

ローライ

今回は「ビニール製の縄跳びで拘束」です。JSなので子供の遊び的な縛り方で描いています。

JSアイテムっていうと、他には「タテ笛」と「防犯ブザー」くらいかな？

らも兄



目次

エピソード3 妹の性教育AGAIN	P.4
エピソード4 体育倉庫にて	P.10
エピソード5 続・体育倉庫にて	P.20

次回予告

「黒猫館

肉の契り

えうご期待







Presented by
焼きレモン ROAST LEMONS
オーバークッヘン
& OBERKOCHEN



媚妹・Baby

フルカラーコミック
Full Color Comic

Presented by
OBERKOCHEN
& 焼きレモン

SSC
亜美2

adult only

くわいむれもん



媚・妹・Baby
Be my

JSA 亜美 2

原案 くりいむレモン
媚・妹・Baby
TEXT ローライ
CG かも兄





エピソード3 妹の性教育AGAIN

ヒロシは荒い息をついていた。愛しい妹、亜美と肉の交わりを果たしてしまったのだ。近親相姦の背徳感に背筋がゾクゾクするが、それ以上に妹の無垢の膣に思い切り射精したその快感のほうは何倍も大きかった。

眼下では茫然自失の態で全裸の亜美がベッドに伏臥している。その股間からは先ほどの絶頂の余韻としてドロドロの白濁液が幾筋も滴り落ちていた。

亜美の中にボクの精液が注ぎ込まれて、それが溢れ出ている。

息も絶え絶えのようすで小刻みに慄える亜美の肢体がたまらなく色っぽかった。だから、思春期のヒロシの肉棒は驚異的な速さで回復した。先ほどの射精が嘘であるかのごとく、それは勃起して雄々しいほどの角度でそそり立った。

一回くらいじゃとても満足できない。もっともっと亜美の中に出したい。

○学生の性欲に限りはなかった。

「亜美、次は上に乗ってごらん」

さも当然のごとく、ヒロシはそう妹に促した。

一方、亜美は全身を襲った快感に未だ我を忘れていた。そもそも性行為がどのようなものかさえはつきりとは理解していなかったのだ。それどころか、キスさえまだ誰ともしたことがなかった。その状態でいきなりディープキス、愛撫、フェラチオ、口内射精、生セックス、中出しなのだから、戸惑うのも無理からぬことであった。

ただ、大好きな兄と相思相愛の関係になれたことがたまらなく嬉しかった。うわべだけの空虚なやり取りではなく、お互いの肉体を交わらせて最後は一つになる、それこそが二人の絆であると固く信じた。だから、兄の「次は上に乗ってごらん」という言葉にも素直に応じることができた。

亜美は倒れ伏していた躰をゆっくりと起こした。全身が汗だくで、精液、愛液、唾液に染まってグチャグチャになっている自覚があったが、なにも恥ずかしいと感じなかった。振り向くと、ヒロシが垂直に屹立した怒張をつかみ、仰向けに寝そべて亜美と再び交わる瞬間を今かと待ちかねている。

亀頭の先端からは半透明な樹液がダラダラと滴り落ちて、ヒロシの指を濡らしていた。

「お兄ちゃん・・・」

亜美の性感も次第に回復し始めていた。

亜美は遠慮がちにヒロシの股間を跨ぎ、それから意を決して腰を沈めた。

ヒロシは妹の艶やかな動きを特等席より眺めていたが、やがて観客から主演男優に早変わりした。

亜美の柳腰をつかみ、幼い割れ目を干切れそうなほどに勃起した肉棒へと誘導する役目を担ったのだ。

最初に亀頭が媚肉に触れた。肉と肉が触れ合う痺れるような快感に二人は同時に躰を仰げ反らせた。経験の浅い二人にとっては性交の一つ一つが官能を呼び覚ます因子となった。



「あつ、あううっ……さ、裂けちゃう……」
最初に亜美があえぎ声を上げた。

「ウツ、うああああ……」
肉茎が徐々に膣に埋没していく堪えられない快感にヒロシも言葉にならない呻きを漏らした。

「……す、す……こい……いっ……はい——」
亜美は無意識のうちに肉棒に挿し貫かれた絶頂感を言い表していた。

「おお……亜美も自分で動いてごらん」

激しく腰を動かしながら、ヒロシは騎乗位で女の悦びに耽る妹を巧みに導いた。

「すごく……イイッ！」

亜美は押し寄せるエクスタシーの波動に圧倒されて涎を垂らしつつ、渾身の力で上下動を繰り返した。一突きごとに亀頭が子宮入り口に達して、亜美の性感をいやがうえにも加速させた。

「ああああ……お兄ちゃん……亜美もうダメッ、トンでっちゃううう——」

妹の牀が紅潮して、それと同時に媚肉の締め付けもきつくなっていくさまをヒロシは愉悅の意識の中で感じ取った。股間の一点だけでつながっているというのに、その刹那二人は全身が一体となる高揚感を覚えた。

快感をさらに高めようと、ヒロシは亜美の尻たぶを両手でつかみ、指が食い込むほどにグニョッと押し拡げて、よりいっそう猛り狂った怒張を肉孔の奥底にまで叩き込んだ。そのたびに結合部はグチュグチュと卑猥な音を立てて、体液を周囲に迸らせた。

「んああ……亜美、おかしくなっちゃううう……」

亜美はすでに何度もイッてしまったようだった。

ここでヒロシはちょっとした悪戯を思いついた。亜美の尻を割り裂いている両手を近づけて、人差し指と中指計四本で亜美のアヌスを刺激し始めたのだ。

「いやあ、お、お兄ちゃん・・・やめて、そんなこと——」

全身を覆う陶酔感はそのままだに、新たな性感を加えられて、亜美は没我の淵へと追い込まれた。膣には灼熱の肉棒が、そして菊門は四本の指で弄ばれているのだ。



言葉にならない悲鳴を上げながら、亜美はよがり狂い、絶頂を味わい、しまいにはなにもわからなくなってそのまま兄の熱い射精を受け容れた。

○学生の亜美にとって、それは目もくらむような体験であった。だが、その衝撃はヒロシにとっても同じ。妹との近親相姦がこれほどまでに蕩けるような蜜の味だとは知る由もなかった。



エピソード4 体育倉庫にて

今日は亜美の○学校の運動会、ヒロシは父兄の当然の権利としてこれを観戦、躍動する幼い妹の肢体に言い知れぬ興奮を覚えた。

そして運動会終了後の夕刻、ひそかに体育倉庫に亜美を呼び出した。

裸電球一つの倉庫内は薄暗く独特の寮開気がただよう。そこへ汗だくの体操着姿で亜美がやってきた。

「運動会で活躍する亜美、かわいかったよ。もうガマンできないんだ。ここで愛し合おう」

「で、でもお兄ちゃん……亜美、汗かいてるし、こんなところで人に見られたら——」

「だいじょうぶ、もう運動会の後片付けも終わってみんな帰ったし、こんな時間じゃだれも来ないよ。それに、運動した後の亜美の体の匂いを直に味わいたいんだ」

兄ヒロシの切なる願いに亜美は抗えなかった。

体育マットを敷いた上で、二人は禁断の交わりに入った。



ヒロシは慈しむようにゆっくり妹のパンツとブルマをいっしょに下ろした。

「あああ……亜美キレイだ。キレイだよ」

香気立ち昇る花びらと菊門を同時に目の当たりにして、ヒロシは没我の境地に達した。思わず顔を近づけて胸いっぱいその香りを吸い込んだ。

もう辛抱できなかつた。
ヒロシは甘酸っぱい匂いを放つ媚肉にむしゃぶりついた。

ああー
なんか
酸っぱい……

ニオイ
臭いじゃ
ダメーッ

コラあ
ハ





「すごい締まりだ。亜美の膣、熱くてきつくてサイコーだよ！」

「お、お兄ちゃん・亜美、ヘンなの。痛いのに、だんだん気持ちよくなってるよ」

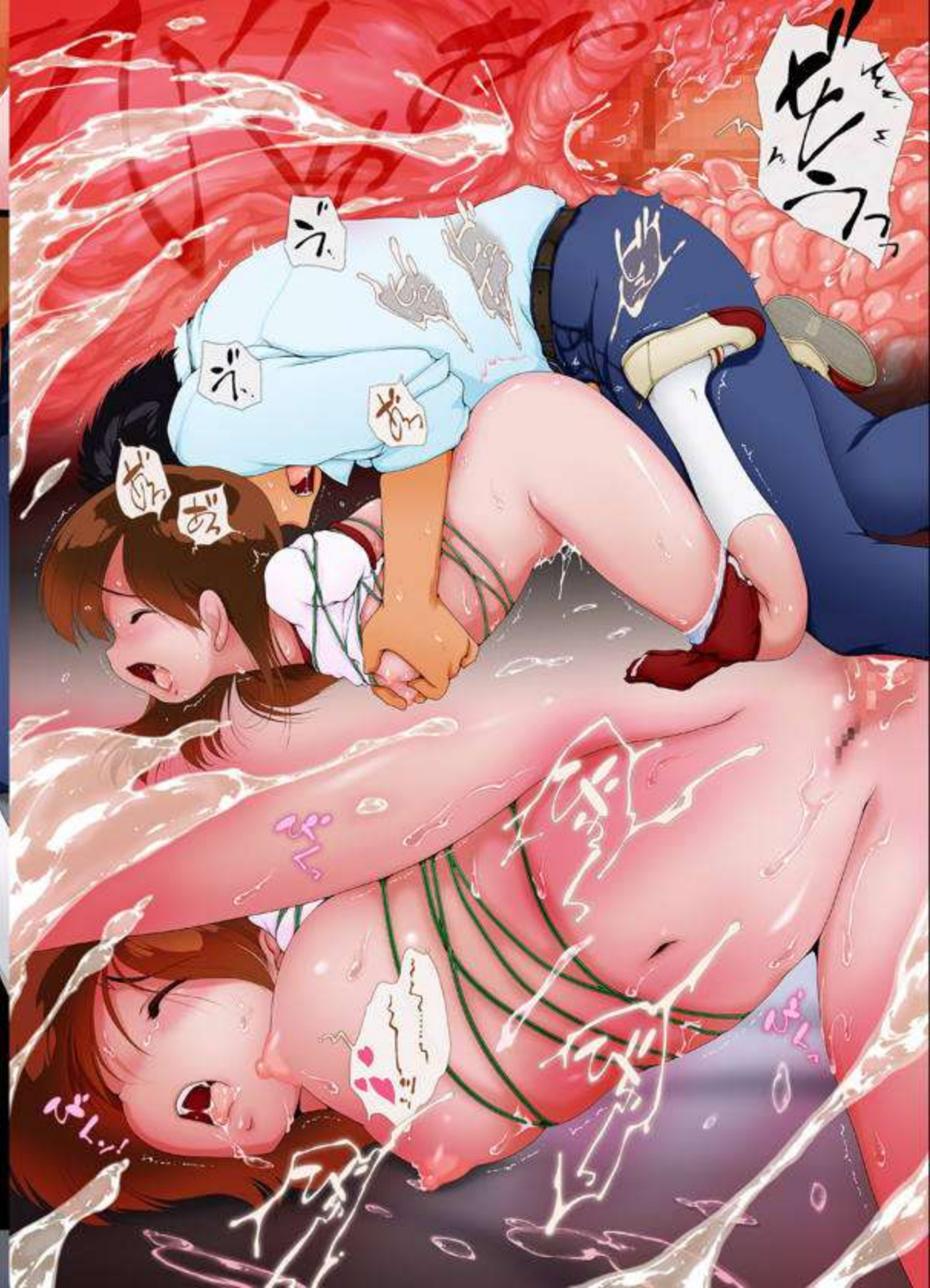
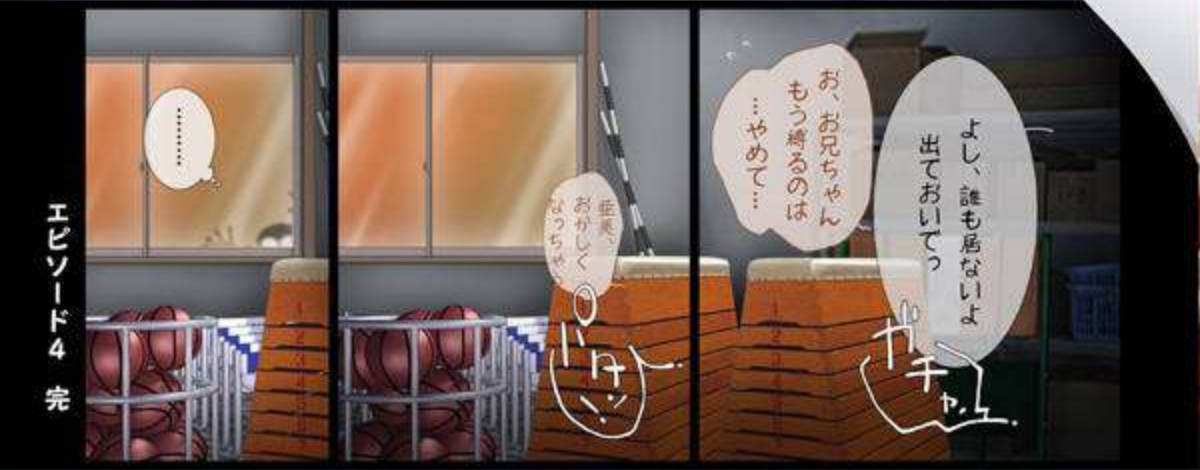
あめ...
亜美

縛られてる
キミも...

可愛い
カワイイ
...よッ

え
あ

ん



エピソード5 続・体育倉庫にて

兄妹の逢瀬を体育倉庫窓の隙間から覗き見していた男がいた。亜美の担任教師、早川拓朗だった。ひそかに亜美に邪な想いを抱いていた拓朗は大きなシヨックを受けたが、逆にこの状況を利用してやろうと良からぬ考えを思い巡らせた。



ある日の放課後、亜美の机の中にメモ書きが入っていた。そこには「今日の午後6時、体育倉庫で待つ。H」と書かれていた。当然、亜美は兄ヒロシからの誘いと受け止めたが、そのメモを書いたのは早川拓朗であった。拓朗は独りほくそ笑んだ。「ボクはウソをついてないよ。Hからの誘いだからね。」

亜美は放課後、体育倉庫へ向かった。そこではすでに全裸となった拓朗が待ち構えていた。だが、裸電球一つの倉庫内は暗く、さらには陽が落ちたせいで、後方の窓からも光は入ってこない。拓朗は巧みにシルエットが分からない光源の死角を狙って立っていた。しかも無芸大食の拓朗に唯一備わった才能として、他人の声色を真似ることだけは抜群にうまいという特技がここでは効果を発揮した。

拓朗は巧みにヒロシの声色を真似た。「亜美のことを待ちくたびれて、もう服を脱いじゃったよ。さあ、これを舐めてごらん」亜美は恥ずかしげな表情を見せつつも、拓朗の怒張に奉仕を始めた。





エクスタシー状態の亜美をマットに寝かせて、その太腿をつかみ、拓朗はまんぐり返し気味での挿入を試みた。ついに拓朗の亀頭が亜美の膣に埋没したそのとき、扉の隙間に懐中電灯の光と「だれかいるのか」という警備員の声が入った。「まずい！（大汗）」

拓朗は数秒で衣服を着用、倉庫後方の窓から脱出。光よりも速いその姿を目撃した者はだれもいなかった。一方、警備員は「こんな時間にだれもいるはずないか」と独り言をつぶやいて去っていった。

拓朗の脳裏に「○学校教師、わいせつ罪で逮捕」という新聞の見出しが浮かんだ。



まもなく亜美は肉棒のサイズが兄のヒロシよりも数段大きいことに疑問を呈した。「それはね、亜美のことを想うと、どんどん大きくなってしまっただよ」といい加減な説明だが、○学生の亜美にはそれでも通じてしまった。

亜美さんの初めては全部ボクがもらおうよ。お兄ちゃんとの過ちは兄妹だからノーカンだよ。いよいよ絶頂に達して、拓朗はヒロシの数倍のザーメンを亜美の体にぶちまけた。

次回予告
「黒猫館
肉の契り」
乞うご期待



あとがき

当初の予定通り、「姉・妹・Baby A2」をリリースすることができました。まずはほっと一息ついてます。「姉・妹・Baby A1」はくりいむレモン第一作「姉・妹・Baby」の同人版リメイク作品ですが、「姉・妹・Baby A2」はくりいむレモン第五作「亜美 Again」のリメイクではありません。なぜなら「亜美 Again」の世界観を取り入れると、必然的に“破壊者”河野が登場し、物語が急展開せざるをえなくなるからです。

亜美は「姉・妹・Baby」における兄想いの従順な妹という設定が個人的にベストだと考えており、そこに現実的な“非情の世界”を描く必要はないとさえ思っているほどです。ゆえに、兄妹のラブラブな箱庭的世界は永遠に続きます。二人を離別させる要素は存在しないのです。

というわけで(?), 「姉・妹・Baby A0」シリーズはいったん休止して、次回作は予告のとおり「黒猫館」です。あやが登場するのは5年ぶりでしょうか。この数年の間にいろいろと温めてきた構想がついに形となって現れるときが来ました。テーマは「黒猫館の精髓を極める」これに尽きます。アニメ「黒猫館」を観て、同人誌「表面張力」を読んで、感動したひとはどこに魅力を感じたのでしょうか。本サークルはそこを徹底的に追究します。

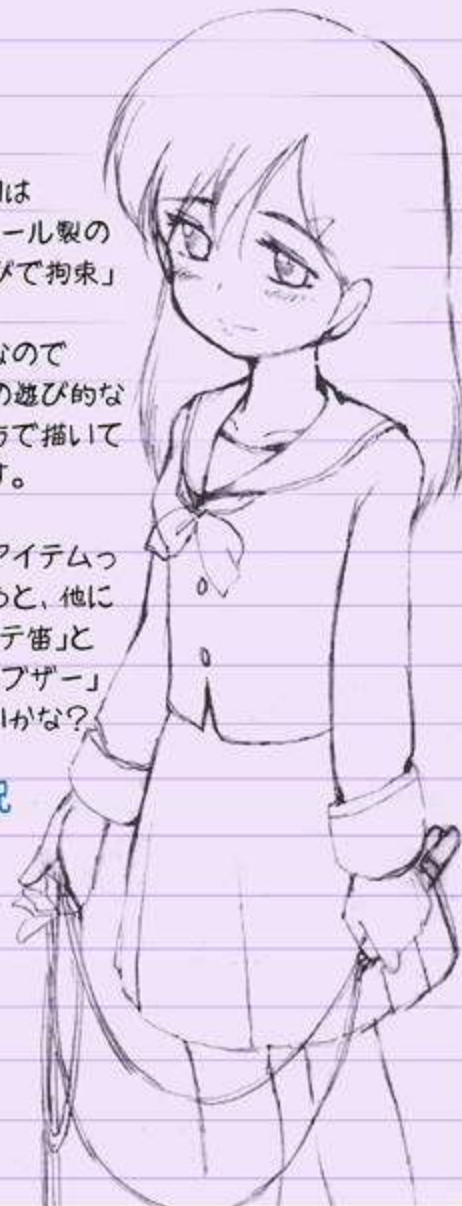
乞う、ご期待！

ローライ

今回は「ビニール製の縄跳びで拘束」です。JSなので子供の遊び的な縛り方で描いています。

JSアイテムっていうと、他には「タテ宙」と「防犯ブザー」くらいかな？

らも兄



目次

エピソード3 妹の性教育AGAIN	P.4
エピソード4 体育倉庫にて	P.10
エピソード5 純・体育倉庫にて	P.20

くいむレモン

今回はJSアイテムとして、「ビニール製跳び縄」を使用しています。

縄跳び、といえは体操服。…と、いえはブルマー。

…?

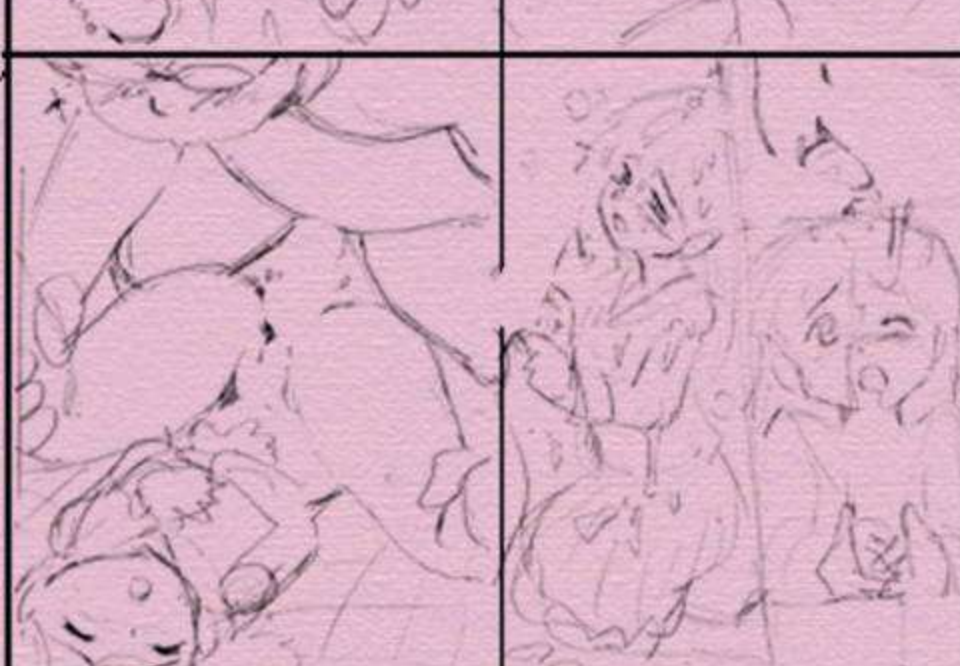
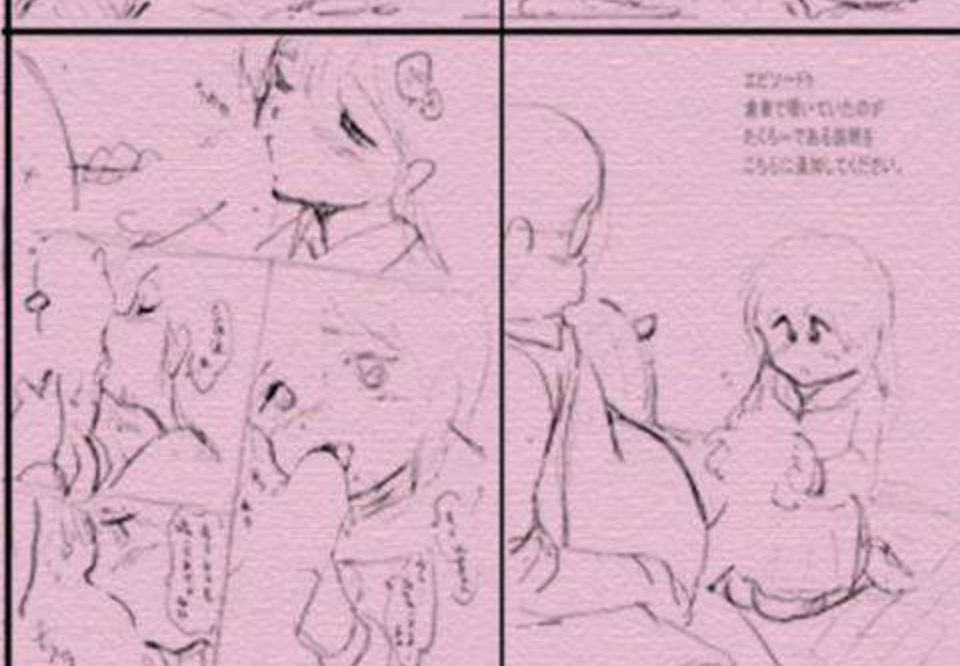
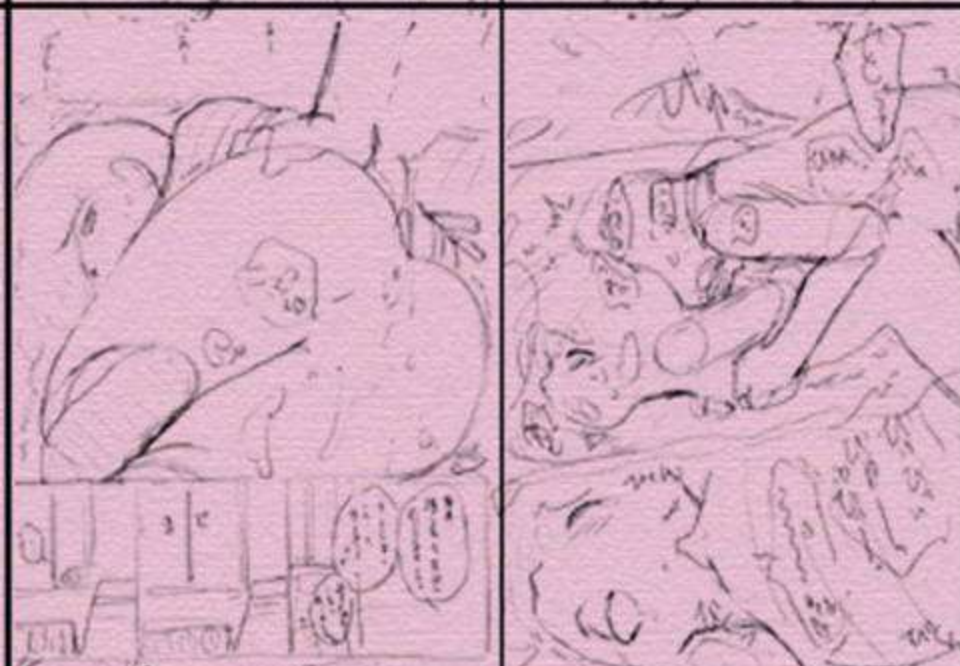
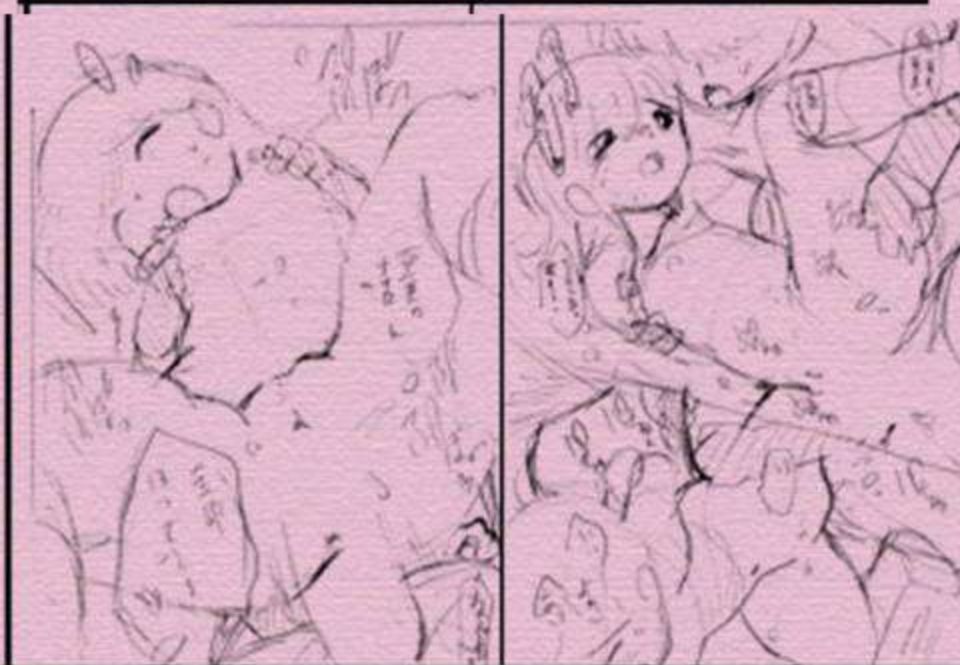
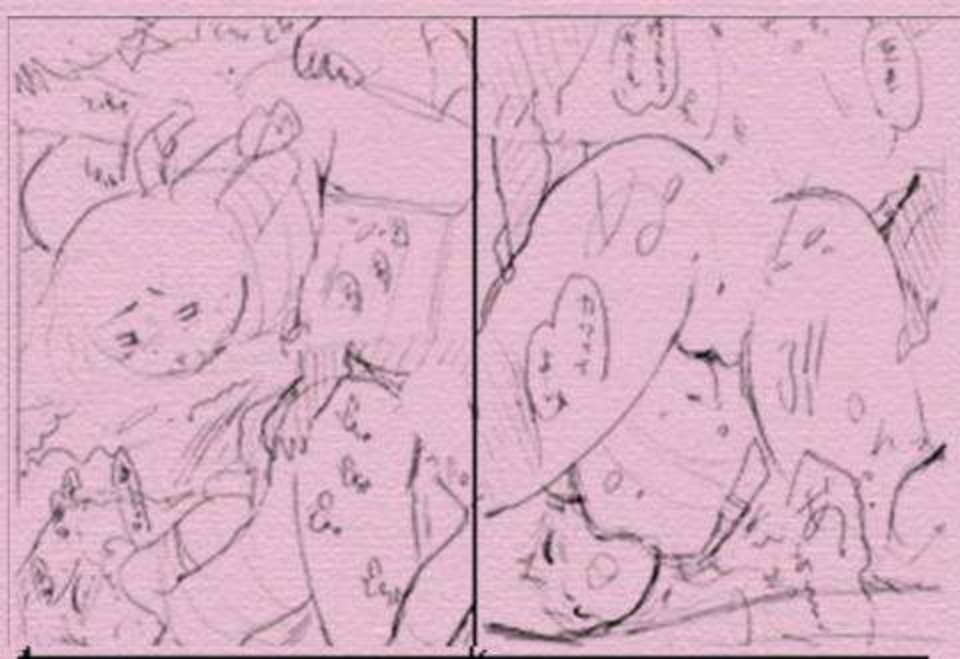


媚・妹・Baby

JS
A

亜美2

「表紙」



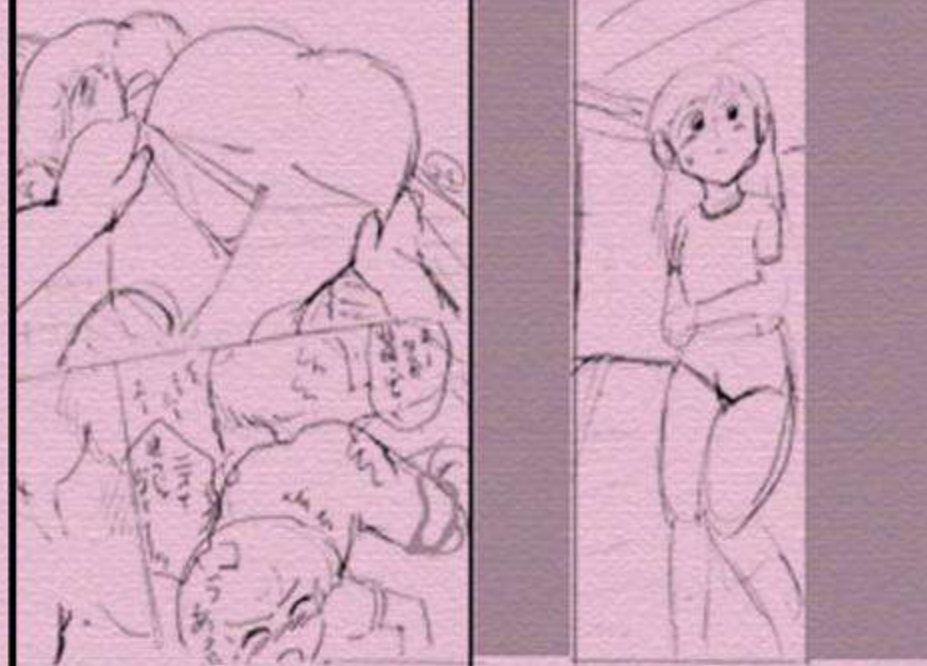
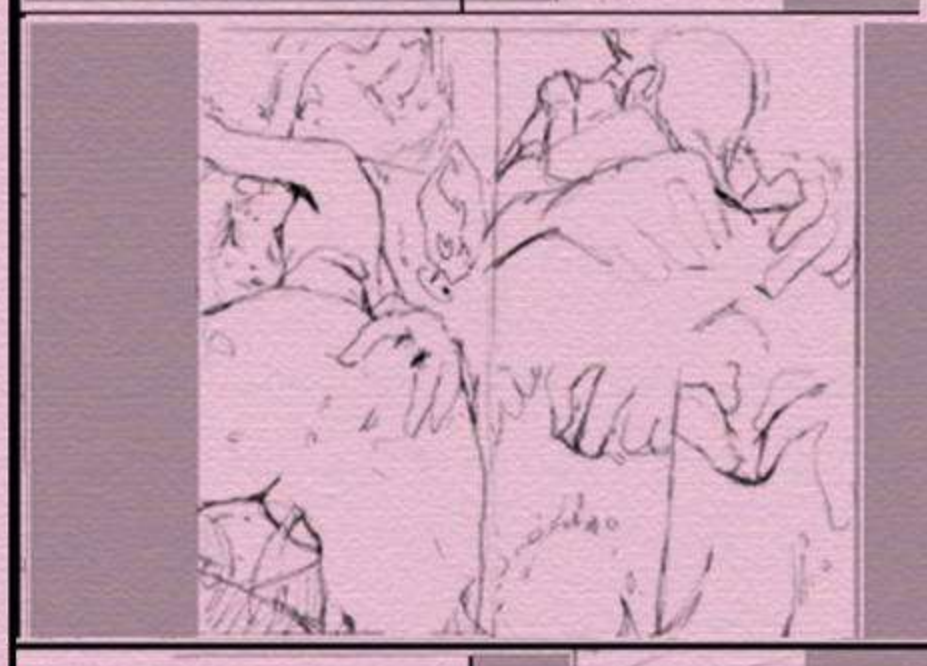
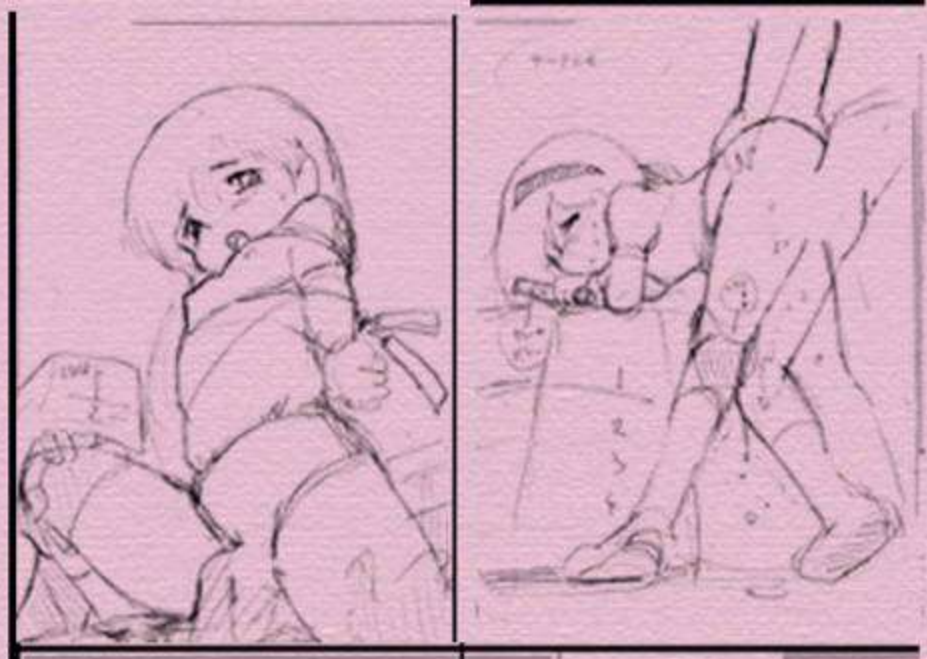
「ラフ絵」

「ビニール製
跳び縄拘束」
のテーマを
選んでみて
分かったの
は、拘束後
の絵がどれ
も似通って
しまうこと
でした。

なので、
拘束前の
2人のやり
取りを描い
てみました。

初めての
「拘束」に
戸惑う彼女。

お互い
初心者なの
で、ビニー
ル製跳び縄
にしたわけ
ですね。



エビソウが
激痛で叫んでいたのが
たぐりである意味を
こちらに反映してください。

「妹の性教育 AGAIN」

前作の予告絵のとおり、
騎乗位から始めています。
しかし予告してしまったが
ために、今回、後半の
牙子先生が活躍する
スペースが無く
なった気が
しますね。





良い機会なので、
ついでに新境地開拓
する兄。

「体育倉庫にて」

体育倉庫は道具類が多いので、場所の説明には困りません。

しかし跳び箱、ボール入れ、マット、金属製の棚など。分かりやすいのはそれくらいで、描く道具がワンパターンになりがち。

他には平均台、道具の入ったダンボール、綱引き、三角コーン、ライン引き、

…なんだけっこう
ありましたね。





←こーゆう
コミカルな
やり取りが、
淫猥なプレイ
ではむしろ
必要だと
思います。





↑の絵。縛ってる方の楽しそうな様子と、縛られてる方の「よく分かってない」表情が合わさってなんか面白い。




←じつは難しいこのアングル。ついつい胸が大きくなるし、顔もかくれてしまうので。

さらに、本当なら前髪が上にめくれるハズなのに、それは描きにくい。



跳び縄の「取っ手」。
これがコンコンコンと
打ち鳴らす激しい
腰の動き。


そんなのが描きた
かったんですけど…。



体位のマネリ
が どうにも気にな
るので、
持ち上げたり
ひっくり返して
みたり。

ヒロインの両手が
自由なら、他にも
やりようがあるん
ですけどね。

この状態だと、自由な
両足で動きをいろいろと
表すしかないですね。



メインの1枚絵。
ヒロインの顔、胸、局部が
全て見えることが必須条件
な気がします。
でもそうになると
だいたい似た絵になるしねー。



中出表現で優先すべきは

- 1、実際に射精する性器。
- 2、ヒロインの悶える表情。
- 3、ヒロインの痙攣する効果線。
- 4、男も悶えてる表現。

などありますが、



この両足(↑)、この男の身体に絡みつくように力んでる足が大事だと考えます。





…あ、この絵(↑)も
重要でした。

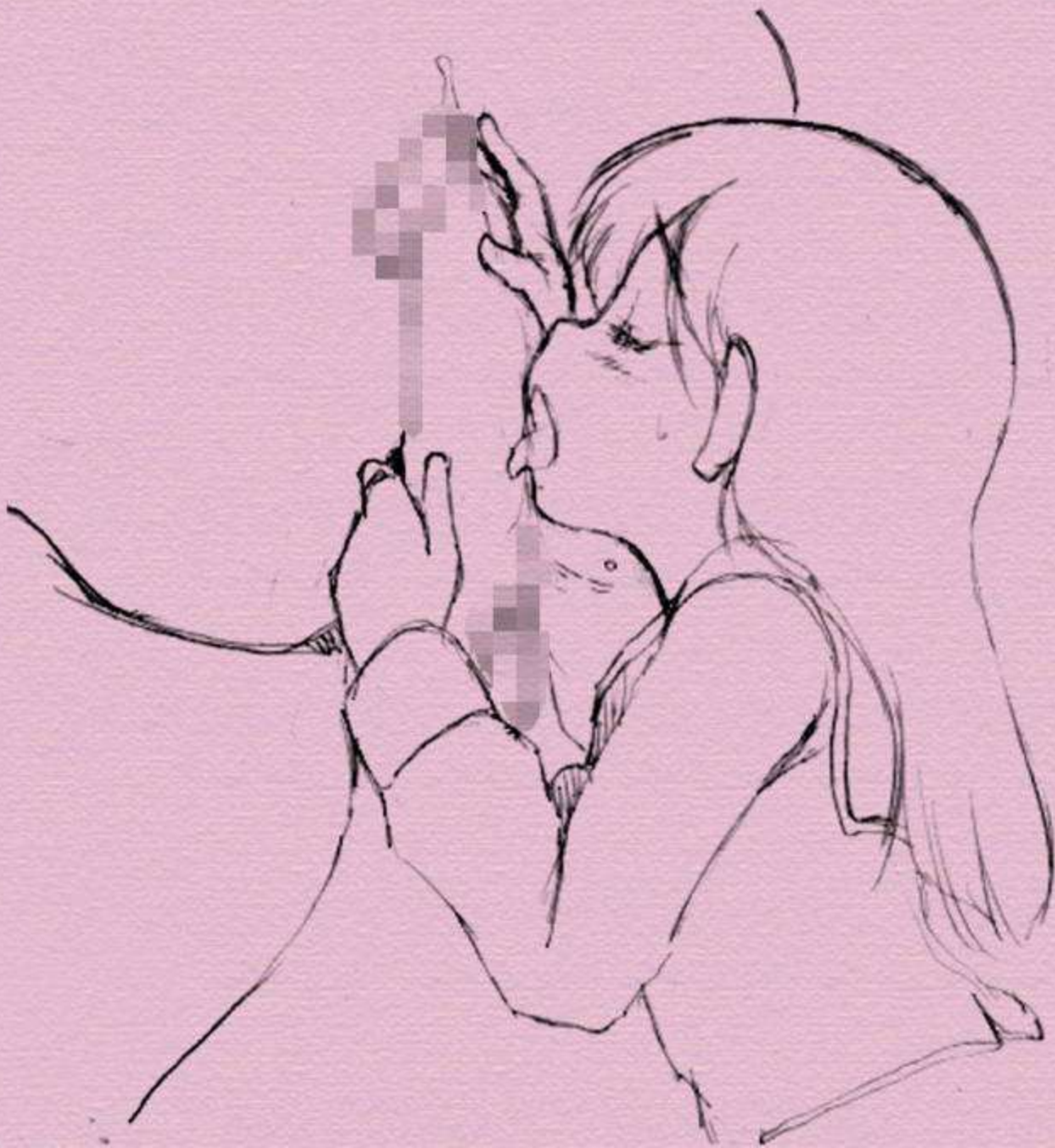
↓始める前は
ロリな絵が
描けるんだ
けどなあ



「続・体育倉庫にて」

まんまと
亜美を騙して
Fに
こぎつけた
たくろー。

おひ



右の絵。顔射ではかなり多く
使う構図ですけど、そろそろ
工夫したいですね。



呪文？

幼女入魂
!!!

たкуроーの野望、
ついに達成なるか？！

御神体



3
4
5
6
亜美の靴のサイズは 22.5cm。
この年齢の平均値、だったかな？

手に持ったバトンも
何故か濡れている。

「裏表紙」

